

学級活動指導略案

指導者名 担任 ○○ ○○

栄養教諭 ○○ ○○

- 1 対象 第1学年 34名
- 2 日時 令和6年6月26日 水曜日 第5校時 (13:40~14:25)
- 3 場所 1年教室
- 4 単元名 歯と口の健康づくり「噛むことのよさを知ろう」
- 5 単元の目標

- (1) よく噛んで食べようとする意識を高めることができる。
- (2) 噛み応えのある食材について理解することができる。

6 単元指導計画 (全2時間)

【単元のゴール】

噛むことのよさが分かり、進んで食べようとしたりよく噛んで食べようとしたりしている。

第1時 噛むことのよさを知り、よく噛んで食べる意識を高めている。

第2時 噛み応えのある食材について知る。

- 7 本時の目標 噛むことのよさを知り、よく噛んで食べようとする意識を高めることができる。
- 8 本時の展開 (1/2)

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
導入 5分	○給食の時に意識して噛んでいるか振り返り、ワークシートに書く。 かむことのよさをしろう。	一斉		◆噛むことのよさについて理解し、よく噛んで食べようとする意識を高めている。 【思考・判断・表現】 (発言、ワークシート)
展開 30分	○噛まずに食べるとどうなるか考える。 ○交流する。 ○なぜ噛むことがよいのか考える。 ○噛むと歯が強くなり、「口の中のセンサー」が働くことを知る。 ○かみかみ博士(栄養教諭)の話聞く。噛み応えのある食材を知る。	ペア 一斉 一斉 一斉 一斉	○給食の食べ方を思い出させる。 ・お腹が痛くなる ・味が分からない ・のどに詰まる ・顎が弱くなる ○噛むとよいことがたくさんあることに気付かせる。 ・味がよくわかる ・太りにくい ・頭がよく働く ・満腹感を味わえる ・病気の予防 ・消化が良くなる ○給食には噛み応えのある食材が使われていることを知らせる。柔らかいものでも、ひと口につき30回噛むとよいことを知らせる。	十分満足できると判断される状況 ○自分の食生活を振り返りながら噛むことのよさを理解し、よく噛んで食べようとする意識を高めている。 努力を要する状況への手立て ○噛んで食べたときと噛まずに食べたときの違いを比べさせる。
まとめ 10分	○学習の振り返りをする。	個別	○自分の食べ方を振り返りながら、分かったことや思ったことを振り返る。 ○思いつかない児童がいれば何回噛んで食べたいか考えさせる。	

1ねん なまえ()

◎かむことの よさを しろう。

☆よくかむと どんなよいことが あるだ
ろう。

☆ふりかえり

ほと 口の けんこうづくり

なまえ []

めあて

かみごたえ がありそうな たべものは？

ふいかえり
